

ご自由にお持ちください。

vol. 14

聖路加国際病院広報誌  
セント・ルーカス

特集

## 女性のライフステージを見据えた診療

P5 心血管センター開設のご挨拶

P6 消化器センターよりカプセル内視鏡のお知らせ

女性総合診療部



病院名は、キリスト教で  
医者の守護聖人とされる  
聖ルカにちなんで  
名づけられました。

<http://www.luke.or.jp>

女性総合診療部の「総合」には、2つの意味があります。一つは、産科、良性の婦人科疾患、悪性の婦人科疾患のすべてに対応できるということ。

大学病院のような大規模な病院の場合、産科と婦人科、さらには婦人科の中でも悪性の病気と良性の病気で、診療科が完全に分かれることがほとんど。一方、小さな病院では、一つの診療科にまとまっていたとしても、手術ができなかつたり、お産は取り扱つていなかつたりといったことが多くあります。

「一人の患者さんを病気単位で診るのではなく、その方がどんな状況にあつても診ることができます。さらには、合併症をお持ちの場合など、診療科という枠を越えて、院内の他科のエキスパートとも連携をとつて総合的に対応できることが、最大の特徴です。」(百枝部長)

もう一つの「総合」とは、時間軸に沿つて総合的に診ることができることのこと。

「女性の一生にはいろいろなことが起ります。月経のトラブルから始まって、不妊や流産に悩んだり、妊娠・出産を越えて、更年期や中高年のトラブル、そしてがんになることもあります。今抱えている病気だけを診るのではなく、将来も含め、ライフステージ全体を考えた診療を行うことを大切にしています。」(百枝部長)

## 将来のライフステージも見越して 病気ではなく患者さん全体をみる

産科関連から、婦人科領域の良性の病気、悪性の病気まで、女性のライフステージにおいて起こる、あらゆる症状、トラブルに総合的に対応しているのが、女性総合診療部。一人ひとりの患者さんに対して、今抱えている疾患を診るだけではなく、その方のライフステージを見据えた診療を行うよう、心がけています。

### 周産期医療

なるべく自然なお産のために

ハイリスクの  
妊娠にも対応



中山 美智子 医長

命の誕生の瞬間は、どれだけ立ち会っても、やはり感動します。どうやったらより安全に、より自然なお産を進められるのか、常に追求しています。



■NICU(新生児集中治療室)

「NICU(Neonatal Intensive Care Unit)」とは、赤ちゃんのための集中治療室のこと。低体重で生まれた赤ちゃんや病気を持って生まれた赤ちゃんなど、治療を必要とする新生児を預かり、24時間体制で専門の医師、看護師が対応しています。

■LDRとは

陣痛(Labor)から分娩(Delivery)、産後の回復(Recovery)まで、同じ部屋で過ごすことができる、お産のスタイルのこと。移動する必要がなく、個室なのでプライバシーが保たれることがメリットです。なるべくリラックスして過ごしていただけるよう、家庭的な雰囲気になっています。



百枝 幹雄 部長

必ずしも生命にはかかわらなくても、トラブルが生活や気持ちに与える影響は大きいので、生活も含めた全体をみることを大切にしています。



黒川 寿美江  
産科病棟ナースマネジャー

音楽や照明、香りなどでリラックスできる環境を整えることはもちろん、妊産婦さんに寄り添い、安心と癒しのケアを心がけています。

大切にしているのは、「医学的な事実に基づいた管理を行う一方で、必要がなければ極力、医療介入は行わない」。(山中医長)つまり、ご希望の方には、遺伝診療部で対応しています。

そのための工夫の一つが、陣痛が始まってから分娩、回復までを同じ部屋で過ごせるという「LDR」。周囲に気を遣わない、家族がずっと一緒にいられると、患者さんから非常に喜ばれています。

「今年の目標として、よりゆつくりと妊産婦さんの相談にのれるよう、助産師が妊産婦健診を行う助産師外来の開設も予定しています」。(山中医長)

産の方、合併症を持つている妊婦さん、赤ちゃんが病気をもつて生まれてくるケースなど、ハイリスク妊娠といわれる方にも対応しています。また、高齢の方や赤ちゃんの病気が心配な方、出生前診断をご希望の方には、遺伝診療部で対応しています。

大切なのは、「医学的な事実に基づいた管理を行う一方で、必要がなければ極力、医療介入は行わない」。(山中医長)つまり、ご希望の方には、遺伝診療部で対応しています。

当院には、病棟に36人、外来に4人の助産師がいます。助産師も、自然なお産を実現するためにさまざまなお産を行っています。リラックスするためにお風呂に入つてもらったり、体を動かしたり、また、緊張している部分をさすつたり、一緒に行つたり、体を動かしたり、また、緊張している部分をさすつたり、一緒に呼吸法を行つたりと、なるべく陣痛が緩和され、分娩がスムーズに進行するようサポートします。

また、出産後には、産後の疲れた体を癒すためのマッサージや母乳育児の支援を行っています。

母乳育児は、栄養学的にも、免疫学的にも、また母親側の健康においてもメリットがあるとして、国際的に推進されています。当部では、退院後も気軽に相談いただけるよう、母乳外来を開き、母乳や授乳の支援はもちろんのこと、育児全般のアドバイスを行っています。

## 分娩中の呼吸法から 出産後の育児支援まで

「リラックスして、日常生活の延長のような形でお産をしていただきたいので、家庭的な雰囲気を心がけています」。(黒川産科病棟ナースマネジャー)

「リラックスして、日常生活の延長のような形でお産をしていただきたいので、家庭的な雰囲気を心がけています」。(黒川産科病棟ナースマネジャー)

## 一般婦人科・婦人外科

患者さんに負担の少ない手術を



■子宮筋腫の手術風景

傷が小さく、  
回復も早い内視鏡手術を推進

女性総合診療部で扱う病気で多いのは、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巢腫瘍などの良性の腫瘍や、子宮頸部異形成というがんの前段階の状態、子宮頸がん、そして、一般的に増加している卵巣がんや子宮体がん。

手術では、開腹手術よりも内視鏡手術を積極的に行っています。内視鏡手術とは、腹部に数カ所、1mm前後の穴を開け、内視鏡と手術器具を挿入し、モニター画面で確認しながら行う手術。傷が小さい分、痛みも少ないので患者さんの負担が軽い、

手術後の回復も早く入院期間が短い、また、美容上も傷跡が目立たないというメリットがあります。「手術後の経過は、手術そのもののダメージはもちろんのこと、ベッドに寝てることで体力や筋力が落ちることによる影響にも左右されます。ですから、なるべく早くベッドから起きることが大事なので

現在、当部では、手術が必要なケースのうち、8割ほどの症例で内視鏡手術を行っており、年間400件ほどの実績を上げています。

さらに、今年半ばには、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の稼動を予定しています。婦人科領域でダ・ヴィンチを導入している病院は国内ではまだ数カ所ですが、国際的には普及してきています。ダ・ヴィンチを使うことで、癒着を起こしている症例やリンパ節を取り除かなければならぬ症例など、内視鏡手術で対応できるものがより増えるでしょう。

がんの治療で化学療法を行う場合は、最初の回のみ入院を行い、2回目からは院内のオンコロジーセンターと連携



村田 英子  
婦人科病棟ナースマネジャー

手術後に足がむくむリンパ浮腫を予防・ケアするための指導も入院中・退院後に行っています。

ンターで通院で行うケースがほとんどです。

「週に1回の通院で、家にいながら受けられるため、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）は確実に上がります。」（百枝部長）

最初の回を入院で行うのは、化学療法に対する患者さんの不安をでかけるだけ軽減したいから。

「化学療法を受ける患者さんの多くは強い不安を抱えています。最初の1クールは、手術で顔なじみになつたスタッフがいる病棟に入院して受けたほうが、より安心して治療に臨んでいただけると思います。」（村田婦人科病棟ナースマネジャー）



■オンコロジーセンター

抗がん剤療法を中心としたがん治療を行います。

### ■子宮内膜症とは

子宮の内側だけに存在するはずの子宮内膜が、卵巣や卵管、腹腔内などの他の臓器に発育するという病気。

### ■卵巣腫瘍とは

卵巣にできる腫瘍。多くは良性の卵巣嚢腫ですが、悪性のものが卵巣がんです。

## 生殖医療

一人ひとりに個別の治療を提供

日本でできる  
すべての不妊治療が可能

不妊治療の  
スペシャリストがサポート

また、不妊治療は、夫婦ともにストレスがかかるもの。

不妊で悩む方は近年、増加しています。一番の原因は、晩婚化によって出産年齢が上がっていること。卵巣の機能や卵の質は35歳頃から低下すると言われています。また、妊娠・出産を経験しないと起こりやすい病気やトラブルの増加、ライフスタイルや環境ホルモンなどの影響による精子の状態の低下など、複合的な理由で不妊症の方は増えています。現在、当部には、月100人ほどの患者さんが不妊治療で通院されています。

妊娠を希望し避妊をしないで性生活を送った場合、1年内に80%が、2年内には90%が妊娠します。妊娠を希望しているにもかかわらず、2年間妊娠しない状態を「不妊」といいます。

聖路加では、「タイミング療法、排卵誘発剤を使った治療、人工授精、体外受精、顕微授精など、日本でできる不妊治療のすべてを行うことができます」(百枝部長)



■顕微授精

顕微授精では、1つの精子を卵子に直接注入するため、体外受精に比べて受精率が高まります。タイミング療法や人工授精などでは妊娠が期待できず、特に精液の質に問題がある場合に用いられます。より安全に、高い妊娠率を確保するため、培養液や器具は世界水準のものを用意しています。

不妊治療において大切にしているのは、個々の患者さんの状態に合わせて個別の治療を行うことです。「体外受精に限れば不妊治療専門のクリニックのほうが、より効率的かもしれません。聖路加では、体外受精以外の方法で妊娠できる方には、クリニックのほうが、より効率的ができるだけ、体外受精ではない方法をとるようにしています。また合併症をもつ方や、がん治療で性腺機能を失う可能性がある方にも対応しています」(百枝部長)



中曾根朋子 女性総合診療部  
外来ナースマネジャー

不妊治療に通っていることを知らたくない人は多いので、複数の診療科がある、普通の病院で不妊治療を受けられることも重要です。

認定看護師が、相談に応じたり、計画を立てる段階から治療に同席するなどして、なるべくストレスなく治療を進められるよう、心がけています」(中曾根女性総合診療部外来ナースマネジャー)



■子宮筋腫とは

子宮にできる良性の腫瘍。女性の2~3割が持っているといわれる、身近な病気です。

# 2011年4月 心血管センターがオープンしました。



## 【心血管センターの概要・主な施設】

- 手術室:1室
- ハイブリッド室:1室
- アンギオ室:1室
- ICCU(集中治療室):8床
- IMCU(ハイケアユニット):8床

### ■ハイブリッド室

手術台と心・血管X線撮影装置が統合された手術室のこと。より精緻で、先進的な低侵襲治療を安全に行う環境が実現しました。

## 開設のご挨拶 センター長 川副浩平



がん診療と並ぶ病院の重点政策である循環器病診療の拠点として、この4月から心血管センターが本館5階にて稼動を開始しました。病院のあらゆる機能を活かして総合的な循環器病診療を展開することをコンセプトに、本プロジェクトは多くの関係者によって精力的に推進されてきました。お陰で予定通りのスタートがきれたことを、大変嬉しく思っています。これまでの準備期間中に培われた既成の枠組みを超えたチームワークが、これからセンターの運営の要になるはずです。聖路加に相応しいセンターを目指して、共に成長できるチームでありたいと思っています。

さて心血管センターには、管理部門と事務部門に譲っていた本館5階のワンフロアに急性期医療施設、すなわちカテール室、手術室および集中治療室を横並びに効率よく配置することができました。また設備的には最新かつ高機能の機器が整備され、最先端医療をこれまで以上に拡充できる環境を整えていただきました。中でも、より精緻な手術的治療が可能な、手術台と心・血管X線撮影装置を統合したハイブリッド手術室が導入されたことによって、先進的な低侵襲治療をより安全に行うことができるようになり、診療のレベルアップに大いに威力を発揮するものと期待されます。またその他にも、カテール治療や外科手術の高画質映像を他機関との間でリアルタイムに交信できるシステムができ、遠隔医療支援やライブ・デモンストレーションなど教育面でも貢献できるようになりました。

このように新しい心血管センターでは、“新しい酒は新しい革袋に盛れ”的のように、新しい活動を展開していくたいと考えています。



■手術室 最新かつ高機能の手術支援機器や周辺設備が整っています。



■ICCU 心疾患専門の集中治療室。心筋梗塞や心臓手術後の患者さんの管理をします。

循環器内科・心臓血管外科ともに治療実績や、各種検査の詳しい説明等を、HPで公開しております。是非ご覧ください。

<http://www.luke.or.jp/guide/heartcenter/index.html>

# DATAで見る データ 聖路加

## 中心静脈カテーテル挿入術の合併発生率を減少させています

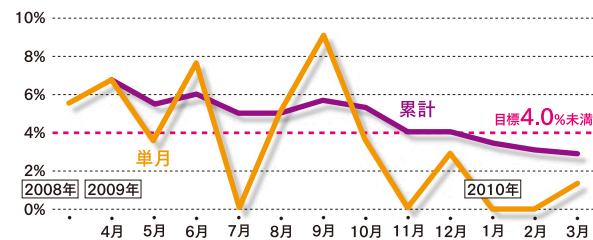
中心静脈カテーテル挿入術とは、点滴用の細い管（カテーテル）を心臓近くの大静脈に留置する処置です。大多数の患者さんでは安全に実施されるものの、一般的に5%程度の患者さんに術後、出血や疼痛、不整脈などの合併症\*が起きてしまうと言われています。当院では、その発生率を少なくすべく、穿刺部位別・方法別に分析を行いました。その結果、鎖骨下静脈のエコーガイド法\*において合併症が多く発生していました。そこで、超音波とシミュレーターを用いた研修会と勉強会をすべての医師を対象に行い、認定医制度を導入することで技術習得・向上を図っています。その成果として、2008年度には5.5%だった合併症発生率が、2009年度にはおよそ半分の2.9%にまで減少。すべての部位・穿刺方法で発生率を下げることができました。

今後も安全な中心静脈カテーテルを実施してまいります。

\*合併症：検査あるいは治療に伴い不可避に生じる病気や症状

\*エコーガイド法：エコー（超音波）で目的血管を描出し、その映像を見ながら穿刺を行う方法

### 中心静脈カテーテル挿入術の合併症発生率



### 部位別・方法別合併症発生率

#### 内頸静脈・ランドマーク法

2008 8.4%  
2009 3.6%

#### 内頸静脈・エコーガイド法

2008 3.1%  
2009 1.6%

#### 鎖骨下静脈・ランドマーク法

2008 11.5%  
2009 5.0%

#### 鎖骨下静脈・エコーガイド法

2008 17.2%  
2009 8.3%

#### 平均

2008 5.5%  
2009 2.9%

その他の指標についても、書籍にて公開しております。ぜひご覧ください。  
「Quality Indicator 2010 医療の質を測り改善する 聖路加国際病院の先端的試み」  
2010年9月発刊

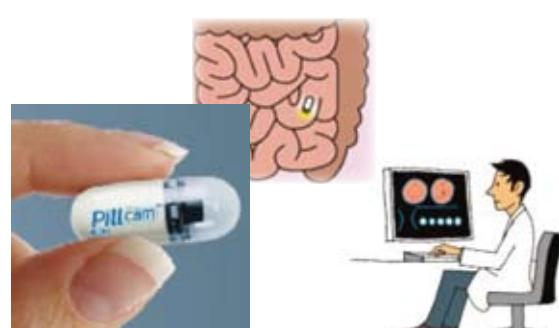
### 消化器センターから新しい検査のお知らせ

## 体内の「暗黒大陸（小腸）」に光を照らす、 カプセル型小腸内視鏡

消化器センター内視鏡室では、2011年2月から新しく「カプセル型小腸内視鏡」の検査を導入しました。この検査は、錠剤サイズ（右写真参照）のカプセルを飲み込むだけで小腸が観察できます。ではなぜ小腸は「暗黒大陸」と言われてきたのでしょうか？それは小腸の長さが6～7mもあるためです。これまで小腸の検査というと、CTや造影検査といった間接的な観察が主体でした。最近では、バルーンがついた内視鏡を使って直接観察できるようになってきましたが、小腸への挿入は非常に困難であり、患者さんへの負担が大きい検査です。今回導入された小腸検査は、飲み込んだカプセルが小腸に進んでいることをモニターで確認できれば、飲水や軽食・外出も可能になります。保険に関しては、上部・下部消化管内視鏡検査で出血源を特定できず、かつ小腸からの出血を疑う場合に限り適応となります。

カプセル内視鏡の依頼・相談につきましては、消化器内科・内視鏡内科医師までご連絡ください。

1秒間に2枚、  
合計約50000枚の写真が撮影され、  
検査後に読影・解析します



<http://www.nomudake.com/>

ギンインメージング「カプセル内視鏡 飲むだけドットコム」に  
カプセル内視鏡導入施設として紹介されています。

## 生きる道

私は、私の人生の生き方上で3つのことをスローガンとしてきました。

第一は「愛すること」、第二には「創めること」、そして今回は第3のスローガンとして「耐えること」を皆さんに語りたいと思います。

私たちの人生には山や谷があり、苦難の経験もいくつもあると思います。私たち自身が「苦しいこと」「やるせないこと」また「失意したこと」をいつ経験するかも知れません。それは辛くても何とか耐えることが必要です。

私たちは苦難に耐えることにより、私たちの感性が磨かれ、誰か友人が非常な試練で苦しんでいる時、その友人の心を側から支える支え手となれるのです。自分が苦しみに耐える感性があつてこそ、ひどい苦しみに遭っている人の支え手にならなければなりません。

(聖路加国際病院理事長・名誉院長)

## ご寄付をいただきありがとうございました

11月～2月分

金額	名前
2,000,000円	中島 博子様
1,000,000円	高松 レイ子様、筒井 明子様
770,000円	隠田 静枝様
115,000円	齋藤 優様
100,000円	宇都宮 昭子様、西澤 米子様、高橋 永枝様、
	日野 純男様、今野 秀洋様、長友 健二様、大山 英治様
50,000円	戸村 進様、戸村 光子様、並木 正幸様、村田 昭二様、
	立石 一雄様、益弘 和己様
30,000円	太田 弘之様、小薗 美智子様
10,000円	川村 康成様
合計	12,631,500円(上記他匿名52件含む)

皆様からいただいたご寄付は、がん・救急医療・小児科・産科・心臓血管疾患などの分野に役立てております。「医療崩壊」と呼ばれるほど多くの問題を抱える日本の医療。「このようなくきこそ他院がないことをする」という方針のもと、今後も幅広い領域で医療に貢献できるよう努めてまいります。

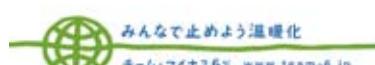
ご寄付に関しては、財務経理課 寄付係(03-5550-7063)までお問い合わせください。

## 聖路加国際病院の理念

*This hospital is  
a living organism designed to demonstrate  
in convincing terms the transmuting  
power of Christian love  
when applied in relief of human suffering.*

1933 Rudolf Bolling Teusler

キリスト教の愛の心が 人の悩みを救うために働き  
苦しみは消えて その人は生まれ変わったようになる  
この偉大な愛の力を だれもがすぐわかるように  
計画されてできた 生きた有機体がこの病院である



## 「耐えること」

私は、私の人生の生き方上で3つのことをスローガンとしてきました。

第一は「愛すること」、第二には「創めること」、そして今回は第3のスローガンとして「耐えること」を皆さんに語りたいと思います。

私たちの人生には山や谷があり、苦難の経験もいくつもあると思います。私たち自身が「苦しいこと」「やるせないこと」また「失意したこと」をいつ経験するかも知れません。それは辛くても何とか耐えることが必要です。

## Service &amp; Action Information

## 聖路加健康講座

会場 聖路加国際病院2階 トイスラー記念ホール

時間 午後6:00～7:30

入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。

2011年

4月26日(火)

## 健診から長寿健康へ

—健診でわかること、上手な健診の受け方、健診の活かし方—

予防医療センター長 河北俊子

5月24日(火)

## 股関節の痛み

—痛みのない生活を目指して—

整形外科 辻莊市

6月28日(火)

## 消化管癌内視鏡治療の最前線!

—食道・胃・大腸—

消化器内科 植村昌代

詳しくは  
聖路加健康講座で検索

聖路加健康講座

検索

## 聖路加国際病院

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1 TEL.03-3541-5151(代)  
<http://www.luke.or.jp>